

～12市町村 復興再生への取組《浪江町》～

(公財)福島県農業振興公社

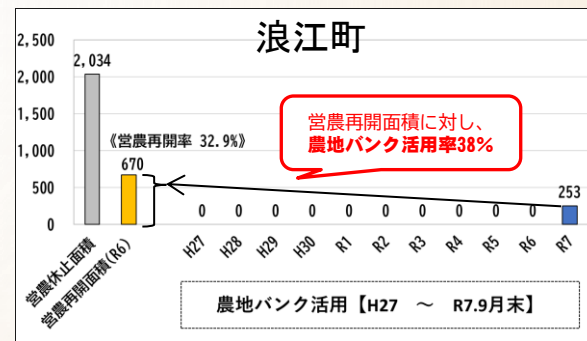
浪江町における営農再開状況及び営農再開に向けた取組紹介

営農再開の状況

浪江町では、東日本大震災及び原子力災害が重なり、住民のほとんどは避難を余儀なくされており、避難先が生活の拠点となっています。(R7.6.1時点の浪江町の居住率16.3%)

避難指示解除後においても、避難先から町へ通いながら農地の維持管理・耕作を行っており、震災前の営農面積2,034haに対し、令和6年度の営農面積は670ha【浪江町調べ】、営農再開率としては32.9%となっています。

浪江町内では、福島再生加速化交付金を活用したほ場整備事業が実施されており、ほ場整備事業の進捗に合わせて、関係機関と連携した農地バンク事業の活用を推進し、担い手への農地集積・集約化を図っています。



農地バンクの活動状況

市町村コーディネーターは、地域計画策定の座談会において、農地中間管理事業の概要説明や町の広報誌による農地バンクのPRを行うなど、通常の契約業務以外にも、推進活動等を実施した結果、令和6年度に震災後初めて、浪江町にて農地中間管理事業の活用があり、令和7年9月末時点で約253haの契約締結となりました。今後も、関係機関と連携し、浪江町における営農再開の一助となるよう農地中間管理事業を推進していきます。

地区の取組事例

県営ほ場整備が実施されている「加倉地区」では、「加倉の稲穂たなびく田園風景を再生する。」を目標に、加倉生産組合を設立して、地区の農地の大部分を担うとともに、外部からの参入者の受け入れも行いながら地区の農地の保全に取り組んでいます。



▲加倉地区での田植えの状況

また、加倉生産組合の他、地域外の受け手法人の参入により、地区の7割以上の農地について、将来の農地利用の姿が明確化されました。

《市町村コーディネーターより》

浪江町と町内外の農業者がともに芽吹き、希望が広がっていくようなご支援をしていきたいと思っています。

お気軽にお問合せください。

浪江町役場 農林水産課駐在

浪江町担当：発田 かおり